

社会医療法人財団白十字会

介護老人保健施設 燦/長崎県佐世保市

介護老人保健施設燦は、看護・介護・リハビリテーションを通じて、介護が必要な利用者の方々の自立した生活に向けた家庭復帰のお手伝いをする「在宅復帰支援サービス」や、利用される方々の心身機能回復と介護予防を目的とした「通所リハビリテーションサービス」を提供されている施設です。

本事業では、停電対応型CGSと標準型GHPを設置。パソコンといった電子機器を使用するために災害用コンセントを10箇所を設置するとともに、災害時にも空調を稼働できるシステムを導入したことで、災害時における施設機能の維持と入居者の生活環境の向上を、同時に実現されました。



介護老人保健施設燦 外観

補助事業の概要

- 導入設備: 停電対応型CGS 35kW×1台
標準型GHP 8HP, 30HP×各1台
標準型GHP 16HP, 20HP, 25HP×各2台
- 補助金額: 36,634千円

事業者様の声

補助金を用いた設備導入の経緯と効果

社会医療法人財団 白十字会
介護老人保健施設 施設長 石橋 経久様

当施設では、災害対策として非常用発電機を設置していたものの、給排水用ポンプなどの防災設備のみしか稼働させられず、平成28年の熊本地震や昨今の集中豪雨など相次いで災害が発生する中、災害対応力の更なる強化が必要とされる状況にありました。

そうした中、ガス空調への切替を視野に入れた空調設備の更新検討を進めていたところ、エネルギー関連事業者(西部ガス株)より補助金の案内をいただいたことを契機に、空調設備の更新に合わせて施設の災害対応力の強化について検討を進めていくことになりました。

具体的な検討にあたっては、施設における電力や給湯負荷の状況の把握、および最適な設備容量選定のデータ収集等を目的とした省エネルギー診断を行い、その結果、停電対応型CGSと標準型GHPを組み合わせた設備を用いることで、災害時の対応力の強化に加え、施設全体の省エネルギー化にも対応できるとの結論に至り、導入を決定しました。

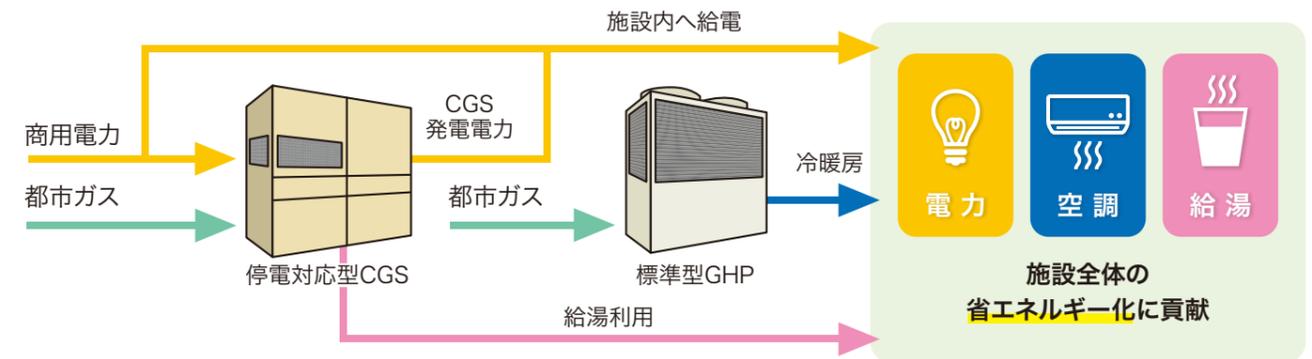
また、補助金を活用できる設備システムとしたことから、事業上ネックの一つであったコスト面についても見通しを立てることができました。

今回の設備更新・導入事業により、空調の継続利用はもとよりパソコンなどの通信機器も継続利用が可能となり、利用者ご家族等との外部連絡手段の確保のほか、電子カルテやナースコールの使用も継続できるなど、利用者の健康管理面ならびに利用者の安心という側面からも高い効果を得られることになりました。また、自治体からも、災害時におけるレジリエンスについて高評価をいただくことができました。

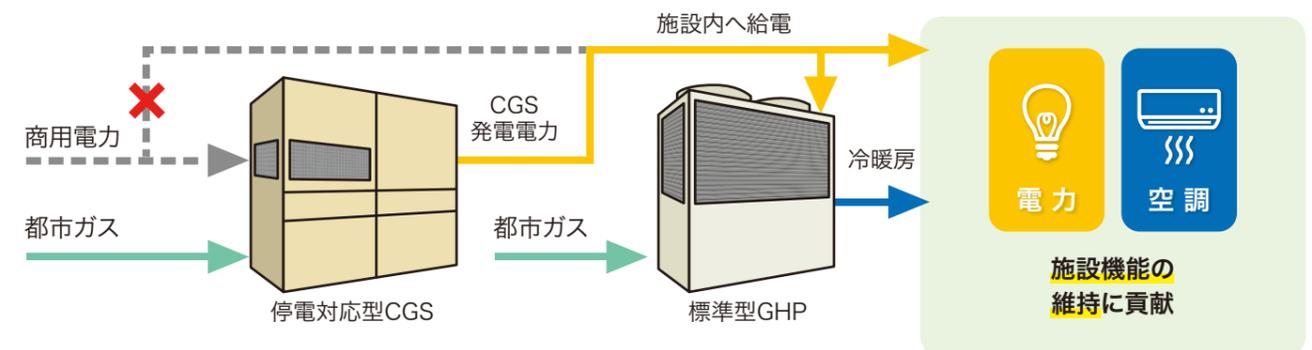
今後も、BCPマニュアルの整備などを進めることで防災意識を一層高め、職員一同で有事に備えて参ります。

平時・災害時のエネルギーシステム

平時 消費電力量を大幅削減 CGSの発電利用と消費電力量が少ないGHPにより、契約電力の低減が可能



停電時 停電対応型CGSで発電した電力を施設内に給電 機能維持に必要な照明やパソコン、健康管理の面で必要な空調の継続利用が可能



停電時の設備活用例

給電利用



パソコン等の通信機器

非常用コンセントからパソコン等の通信機器に給電

- 平時と同様に、電子カルテを用いた健康管理が可能
- 利用者ご家族との連絡手段としても活用

空調利用



空調の継続利用が可能な避難スペースの一例

共用部の空調の継続使用が可能

災害時でも施設内の室温を管理できることが、施設利用者の安心に繋がっている



吸引機等の医療機器

非常用コンセントから吸引機等に給電

痰等の分泌物を排泄することが困難な利用者にとって重要な医療機器を使用できる安心感が生まれた



施設内の通信機器

非常用コンセントからナースコールシステムに給電

利用者の状況確認や、職員間の連絡手段として利用することで、現場の混乱を最小限に抑える対策を講じた